



## 1～2年で結果はでます 自信をもって取り組んでください

「生活改善・学力向上プロジェクト」  
総合指導 陰山英男

とかく「教育」というと、教室での取り組みだけが注目されがちですが、私はそうは思いません。子どもの生きる全ての時間が「教育」なのです。睡眠時間はどれくらいか、どんなものを食べさせているか、あるいは食事をしている時に一人なのか家族みんながそろっているのか、これらすべてが「教育」なのです。そうしたものが合わさって、子どもの「生きる力」、生命力が備わっていき、豊かな成長につながっていくのだと思うのです。

私にとって、山陽小野田市での「生活改善・学力向上プロジェクト」の実践というのは、前任地である尾道市立土堂つちどう小学校で過去3年間やってきたことをスケールアップさせた取り組みとなります。といいますのも、土堂小学校というのは、文部科学省の研修開発指定校です。そして、そこに集まってきている保護者というのは、基本的に私の考え方なりを

理解しておられるわけですから、ある意味で特別な学校だったわけで、「特別な学校」で「特別な実践」によって成果が出るのは当たり前じゃないかともいわれました。しかし、そこであげた成果は、地方の普通の学校にもあてはまるものなのです。今回の山陽小野田市でのプロジェクトで、そのあたりを実証したいと考えています。余談になりますが、私は今年から文部科学省の中央教育審議会の特別委員に加わらせていただきました。その中で私が提案した「早寝・早起き・朝ごはん」が国民運動に、「読み・書き・計算」が指導要領に、それぞれ国をあげての方針として採り入れられたところです。

江澤教育長の言葉で非常に印象的だったのが、「特別な学校はつくらない、すべての学校、すべての学級、すべての子どもを伸ばすんだ」というものでした。私自身も「お手伝い」のレベルではすまない、主体的に、精力的に関わらせていただくつもりです。しかし、一番重要なのは、子ども、そして子どもを持つ親に希望をもっていただきたいということです。早起きするくらいで効果があるのかと思われる方もいらっしゃるでしょうが、土堂小学校での実践による数値的なデータの裏付けから私は言っているわけです。おそらく1～2年で結果は出ると確信しています。そこまでこのプロジェクトを軌道にのせ、引っ張っていくのが、私の役割だと思っています。

山陽小野田市での取り組みを私自身の今年度の活動の中で最優先のものとして、全力で取り組んでいきます。保護者、先生のみなさん、どうぞ自信をもって取り組んでください。(2006年6月)

## 「生活改善・学力向上プロジェクト」に関するご質問にお答えします

**【質問】モジュール学習（反復学習）を行うことで、ほかの教科の遅れなどの影響はありませんか？**



教育課程の計画、またはモジュール授業の内容は、各校の教務主任の先生を中心に事前によく確認をしたものであり、本来学習すべき内容に支障のないよう実施されています。先進校での事例をみても、2学期以降は、通常の授業も充実してきており、本市でもその効果は十分期待できると考えています。

**【質問】モジュール授業の進め方や内容は、市内すべての学校で統一されたものですか？**



全市的な取り組みですから、基本的には日課表への組み入れ方や内容の大きな枠組みについては、共通したものとしていますが、各校にはそれぞれの特色や良さがあります。学校の特色や児童の実態、保護者の思いも採り入れながらすすめていきます。